

しっぷす

CITIZEN'S POWER NEWS



特集 自分たちが暮らす地区の人口はどうなっているの？ ～地域委員会単位の人口の動きを調べてみました～

みなさんの地域では、どのような課題を抱えていますか？地域の状況によって、解決すべき問題はさまざまです。どのような世代が多い地域なのか、また、将来どのようなお困りごとがでてくるのか、数字から客観的に地域をみることで、取り組むべき活動が分かります。

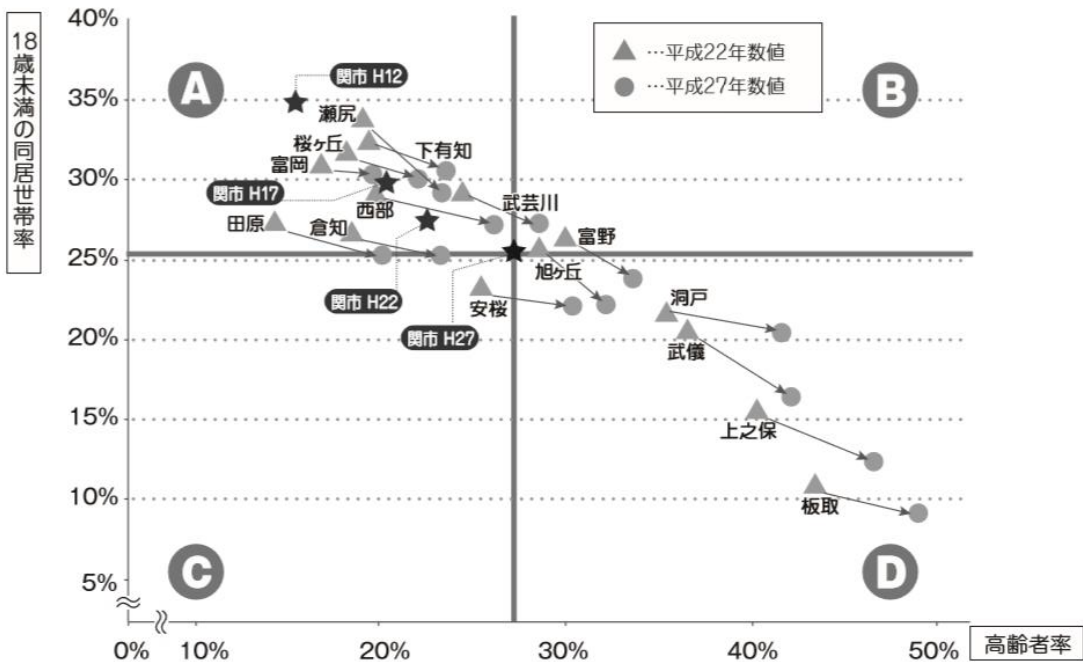
今回は平成 29 年 1 月 27 日に公表された平成 27 年国勢調査の結果から、最新の関市そして地域委員会の現状をお伝えしたいと思います。

地域委員会単位の現状を把握しよう

国勢調査の結果から、当センターで地域委員会単位の「18歳未満同居世帯率」と「高齢者率」のグラフを作成しました。(図1参照)
「18歳未満同居世帯率」からは、その地域の子どもの多いのかわ

ないのかが分かります。これを高齢者率とかけ合わせることで、子どもが多い地域なのか、高齢者が多い地域なのかが分かるのです。

図1 18歳未満の同居世帯率×高齢者率



平成 27 年国勢調査より関市全体 (18 歳未満同居世帯率 25.4%、高齢者率 27.3%) を中心に縦軸、横軸に線をひきました。

すると、高齢者が少なく、子どもが多い地域の A ゾーン (左上ゾーン) には富岡、桜ヶ丘、瀬尻、下有知、西部が、高齢者も子供も少ない地域の C ゾーン (左下ゾーン) には田原、倉知が、高齢者が多く、子どもが少ない地域の D ゾーン (右下) には安桜、旭ヶ丘、富野、洞戸、武儀、上之保、板取が位置することになります。

このグラフから言えることは、それぞれのゾーンで取り組むべき事業が変わってくるということです。例えば、Aゾーンでは子どもが多く、高齢者が少ない地域なので、子育て支援や、子どもの交通安全などの事業を中心に行うことが必要となります。

このグラフでは平成 22 年と比較して作成しましたが、どの地域も総じて平成 22 年時よりも右下に移行しています。また、高齢者の増加率が高い地域が多くあります。今必要な事業、今後取り組むべき事業は何かを整理し、計画的に取り組むことで、今後抱えるであろう地域の課題への対策を取ることができます。

H22 関市平均から H27 関市平均の下がり具合と次の 5 年も同じ傾向で下がると定義すると、各地域も同じように下がると考えられます。これは、以前しっぷす Vol.23 でも H22 時の武芸川地区の 5 年後は H22 の旭ヶ丘地区の状況に近くなるとご紹介させていただきましたが、今回の調査結果から、ほぼ同じ状況になったといえます。次の 5 年後は、現在のどの地域の状況に近くなるかを把握し、その地区の取り組みを学ぶことで、今後の対策を取るようしましょう。